

## 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る協議の場の進捗状況について

### ○ 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る「協議の場」の設置について

- 令和 2 年度より堺市精神保健福祉審議会、令和 3 年度より堺市退院促進支援会議を、新たに「協議の場」とし、堺市において精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム（以下「にも包括」という。）の構築について重層的に協議できる体制を構築した。また、令和 5 年度第 2 回堺市退院促進支援会議での意見を踏まえ、当該会議のもとに市内精神科病院を中心に、地域移行支援に係る支援者の関係構築や事例検討からの地域課題の抽出を目的としたワーキングチームを設置した。

### ○ 「協議の場」としての退院促進支援会議の進捗状況について（令和 5 年度）

#### 第 1 回 堺市退院促進支援会議

- 令和 5 年 10 月開催の退院促進支援会議においては、行政や基幹相談支援センターの地域移行に関する取組みについて報告。市内の精神科病院の担当者等からは、コロナ禍における 5 類移行後の対応状況や課題等について以下の内容の意見が出された。
  - 茶話会が長期間実施できなかったため地域と入院者の距離が開いてしまった。
  - 地域移行コーディネーターとともに茶話会を実施したいが提案方法を知りたい。
  - ピアサポーターという社会資源の開発にも注力してほしい。
  - 茶話会には患者が楽しめる要素を取り入れているが、入院中でも楽しむことができると退院意欲が高まらないことが懸念される。
  - 感染対策上、施設見学ができず情報量が少ないことで退院を躊躇する方もいた。

#### 第 2 回 堺市退院促進支援会議

- 令和 6 年 3 月開催の退院促進支援会議においては、市内精神科病院や地域の事業者より要望のあった地域移行支援で活用できるツールとして、堺市地域移行体制整備事業の一環として作成された「グループホームでの暮らし」を撮影した動画を共有した。動画への感想や活用方法について、以下の内容の意見が出された。
  - 具体的で分かりやすくメッセージ性もあった。
  - 退院支援に携わった病院関係者にとっても経過が分かるので良い。
  - 病院のハード面でパソコンや wi-fi 環境などの設備が不十分などにより見づらい課題がある。
  - グループホームの見学に行けない患者や家族もいるため、外に意識が向くきっかけになるのではないか。
  - 茶話会や作業療法の時間を使って院内で上映できるかもしれない。
- 今後について  
ワーキングチームは現在モデル事業として試行実施しているため、進捗状況や効果等を確認しながら、今後の展開を協議予定。  
退院促進支援会議での議論内容や議論の方向性を、本審議会にご報告させていただき、委員のみなさまには、「にも包括」に係る必要となる協議事項等、お気づきの点等をご助言いただきたい。